

令和3年度使用 中学校国語科（国語）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p><知識・技能を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○詩の鑑賞から試作という具合に流れがあり、自然な流れで様々な学習ができるように工夫されている。 ○本編、基礎編、資料編と関連ある教材が整然と整理され、見やすく、様々な視点から学習が深められるようになっている。また、付箋の写真といった具体例が示され、作業がわかりやすくできるなど、レイアウトの工夫がある。 <p>△礼状の書き方は、職場体験で指導を活かすために2年ではなく、1年で行うよう改善していただけると、さらに高い学習効果が得られる。</p> <p><思考力・判断力・表現力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「言葉の力」は、3年間で系統的・段階的に積み上がるように配慮されており、文章を読む際のポイントを学べるようになっている。 ○本編「学びの扉」を導入に基礎編「学びを支える言葉の力」で深く学べるようになっている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「他教科で学ぶ漢字」、「他教科との関連」等、他教科と関連する教材が明示され、教科を越えた学習ができる。 ○漫画表記の「学びの扉」は、生徒にとって入りやすい導入となっている。 ○1年で活用のない自立語まで学べるようになっている。
三省堂	<p><知識・技能を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読み方を学ぼう」で様々な観点（説明文の基本構造、人物相関図、行動描写、三角ロジックなど）からの読み取り方を具体的に学べ、かつ、それを利用しながら読み取りの分析的な理解が深まるような構成となっている。さらに、上にインデックスがついたり、巻末の折り込みにまとまった一覧があったり、3年間を通して反復的体系的に学習ができるようレイアウトの工夫がある。「学びの道しるべ」の振り返りと合わせて、見通しをもった学習ができる。 <p>△漢詩は古文よりなじみが薄いため、解説文がほしい。</p> <p><思考力・判断力・表現力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」教材に配置された「学びの道しるべ」で「目標」「内容を整理する」「読みを深める」「自分の考えを深める」「学びを振り返る」「思考の方法」「語彙を豊かに」と項目ごとに学習過程がわかりやすく設定されている。生徒が自分で学習を進める際にもわかりやすい。 ○「読み方を学ぼう」、「ポイント」、「思考の方法」など、「学び方」を学ぶための工夫があり、他の単元等でも生かすことができる力を身につけられるようになっている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○項目のレイアウトや色使いにユニバーサルデザインが採用されている。（原色抑制） ○「資料編」では全学年共通の資料と各学年で学習する内容の資料が掲載されている。 ○1年で活用のない自立語まで学べるようになっている。 <p>△文法教材に前年までの復習が掲載されるとよい。</p>

<p>教育出版</p>	<p><知識・技能を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SDGs やアイヌ文化、AI など社会的テーマを扱った教材が豊富で、特にSDGs に力を入れている。1年でSDGs とは何かを学び、「地球の課題」「身のまわりのごみ」「なぜ人間だけがごみを出すのか」といった問いについて様々な文や印象的な写真を用いながら、現代的でメッセージ性が高いテーマを深く考えさせる学習ができる。自然や環境、科学分野で生徒が主体的に深く学べるような工夫がされている。 ○1年生は金子みすゞの詩の学習から始まるが、そこから続く「文学入門」「学びナビ」で難しい概念を丁寧にわかりやすく学習させようとしている。 △中学校国語の学習の導入としては、音読やノートの取り方を学べるような教材があるとよい。 △古典文学の名作は江戸時代で終わっているが、近代の名作まで載せると受験に役立つ。 <p><思考力・判断力・表現力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材の導入に「学びナビ」があり、学習のポイントがわかりやすい。 ○「読むこと」では「学習の流れ」として「みちしるべ」で「内容を読み深めよう」「自分の考えを伝え合おう」「振り返り」という学習過程を順序立てて示し、学習の見通しと重点を確認できるようになっている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では「学習活動の流れ」により具体的に何をすればよいか生徒が明確にわかるようになっている。また、「質問や評価をするときの表現」「伝えたいことを整理して書く表現」で文型などの表現を取り立て、思考力を押さえた表現活動が今後の学習で活用できるようになっている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのチャレンジ」はそのまま学力調査や入試問題に使えるような問題で、考え、表現する力を養う教材となっている。 ・行が数えやすいように点が打ってある。
<p>光村図書</p>	<p><知識・技能を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の折り込みに観点ごとの教材一覧があり、見通しをもって学習ができる。 ○裏面には思考の整理法を記した「思考の地図」があり、たびたびここを振り返りながら学習を進めることで、思考の道筋が自然に身につくようになっている。 ○読書案内が充実している。教材終末の「広がる読書」で関連書2冊が紹介されている。「読書生活を豊かに」「読書に親しむ」という教材があり、学年ごとに、本の紹介や、「ポップづくり」「紹介合戦やポスター作成」「ブックトークや読書会」などの読書に関する活動を学べるようになっている。 ○ジャンルごとの「読書案内」「作家のコラム」と多岐にわたる読書案内があり、生徒が本に興味をもつよう工夫されている。 <p><思考力・判断力・表現力を高める工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」では、「学習」（てびき）の冒頭に「学習活動」（言語活動）と目標を明示し、学習過程に即して「捉える」（構造と内容の把握）、「読み深める」（精査・解釈）、「考えをもつ」（考えの形成・共有）、「振り返る」の4段階で課題が示してあり、思考の流れが定着しやすい。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、目標と学習の流れがわかりやすく明示されており、「つなぐ」という項目で日常生活等での活用場面が示してあるため、実生活でも生かせることがわかる。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○色覚特性への配慮や弱視に対する配慮が拡大教科書等でなされている。 ○新出漢字の扱いが丁寧である。教材本文の脚注にそのページに出てきた新出漢字を、教材末にその教材に出てきた新出漢字の一覧を載せている。